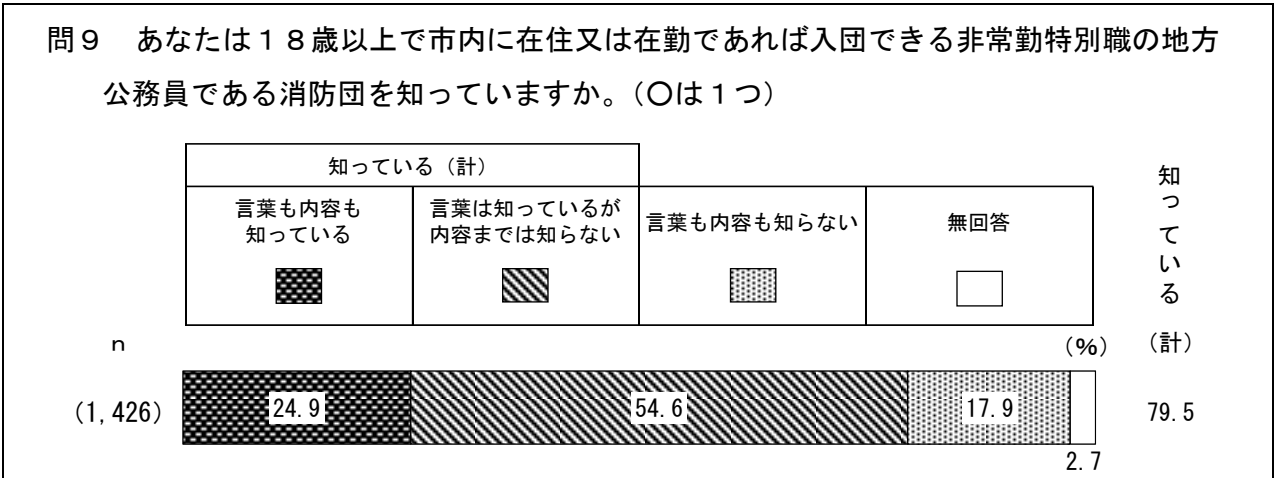


## 4 消防団の認知度について

### (1) 消防団の認知度



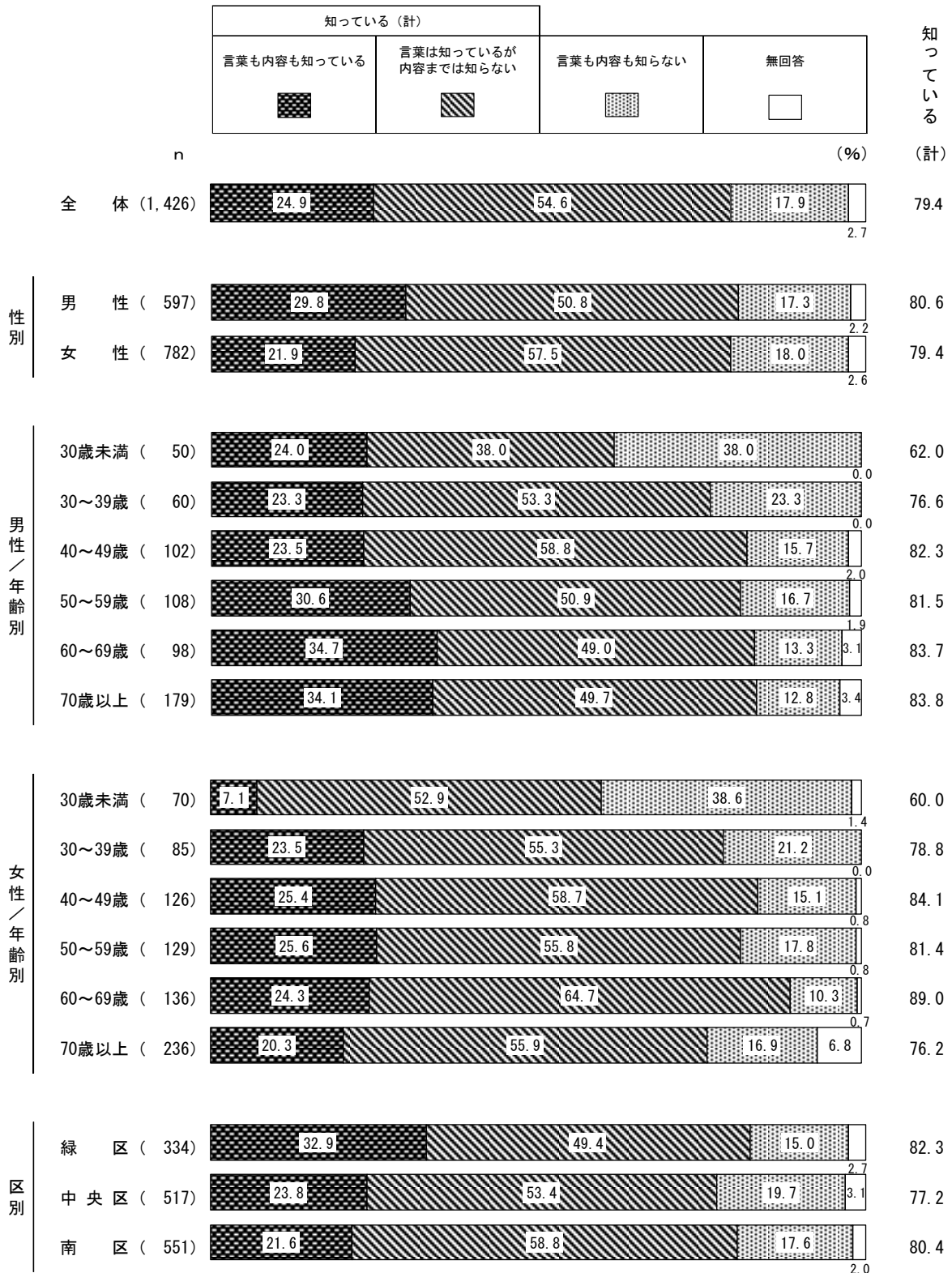
18歳以上で市内に在住又は在勤であれば入団できる非常勤特別職の地方公務員である消防団を知っているかたずねたところ、「言葉も内容も知っている」(24.9%)と「言葉は知っているが内容までは知らない」(54.6%)を合わせた《知っている(計)》(79.5%)は約8割となっている。一方、「言葉も内容も知らない」(17.9%)は2割に満たない。

<性別・性／年齢別・区別結果>

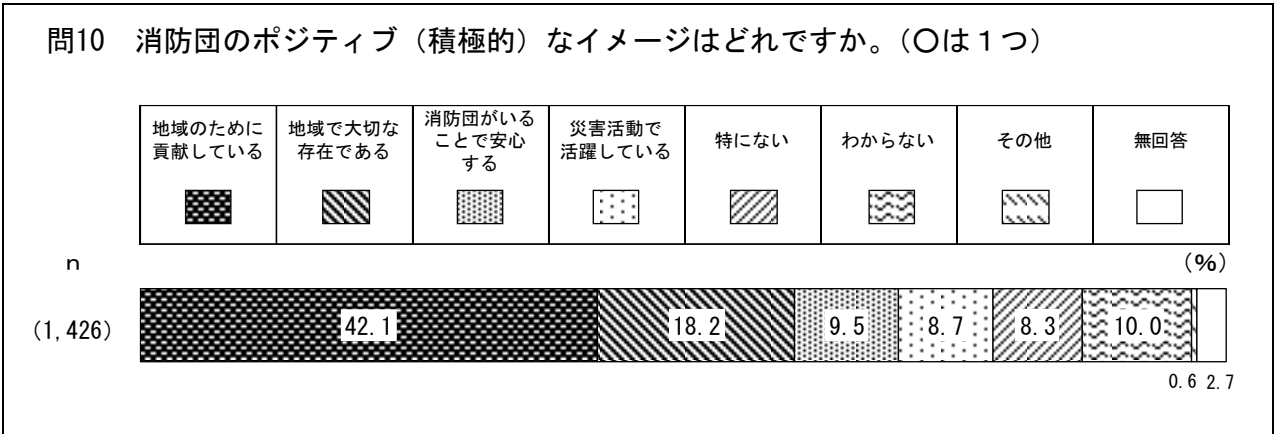
性別でみると、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容までは知らない」を合わせた《知っている（計）》は男性が女性より1.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、《知っている（計）》は女性60～69歳が最も高く、約9割と高くなっている。一方、「言葉も内容も知らない」は男女ともに30歳未満が3割半ばを超えて高くなっている。

区別でみると、《知っている（計）》は中央区が7割半ばを超え、緑区と南区が8割を超えている。



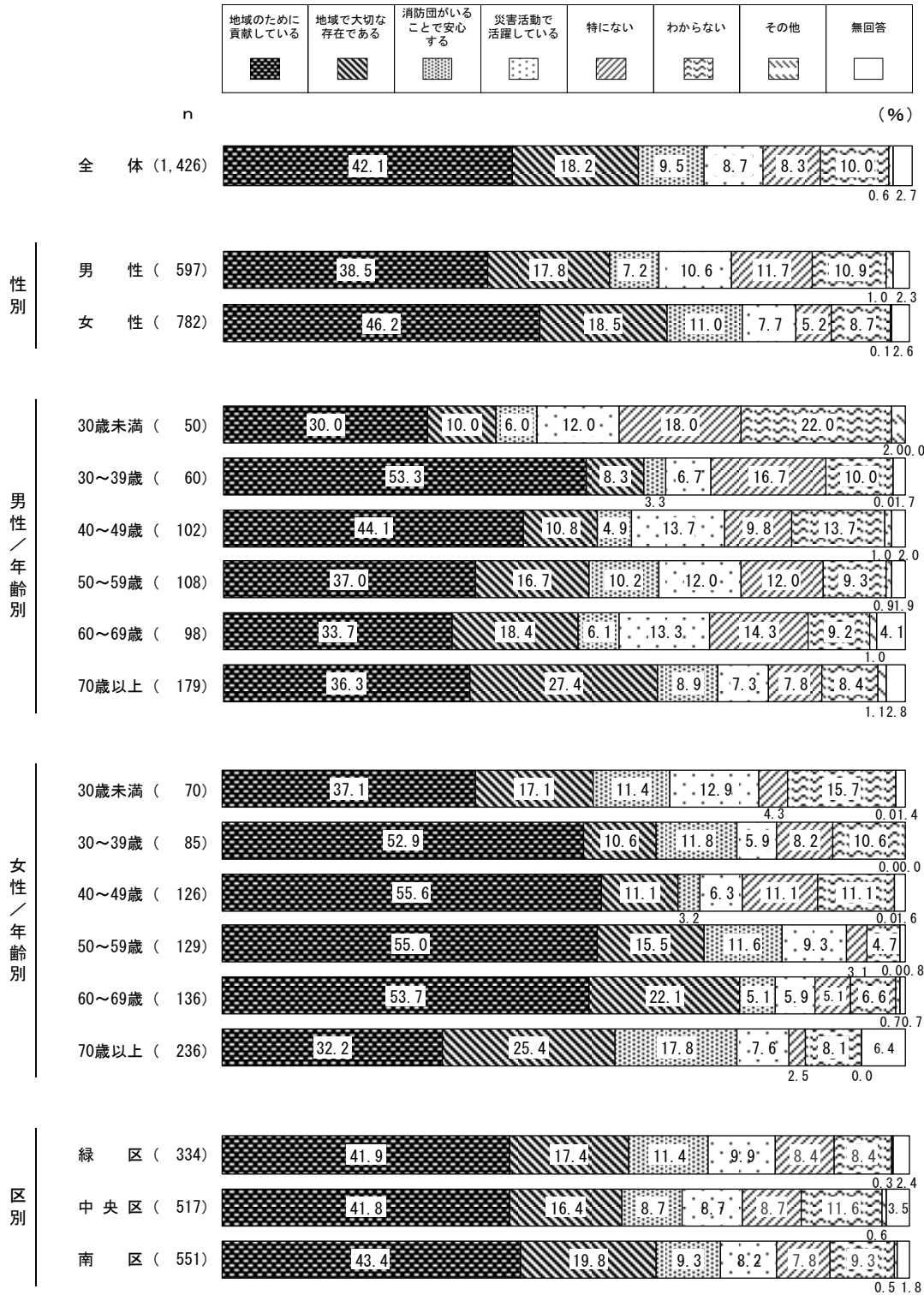
(2) 消防団のポジティブ（積極的）とイメージするもの



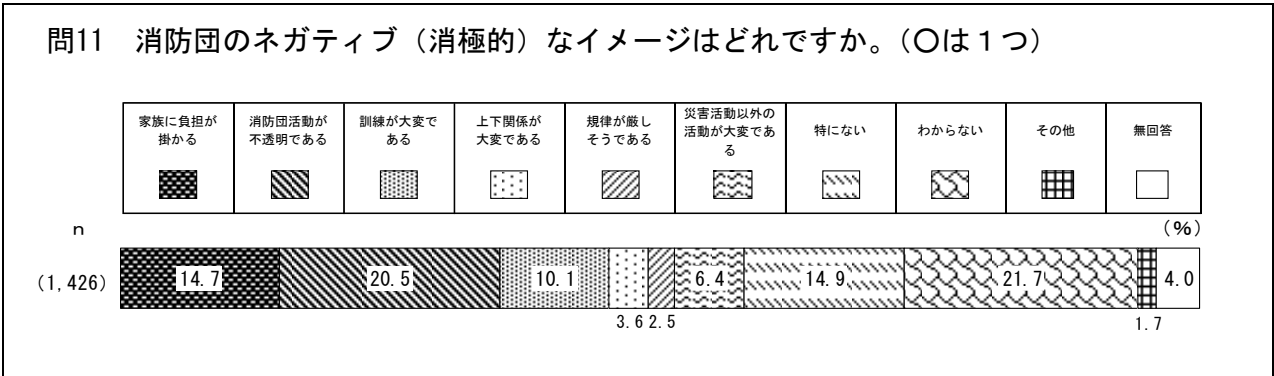
消防団のポジティブ（積極的）なイメージをたずねたところ、「地域のために貢献している」（42.1%）が4割を超えて最も高く、次いで、「地域で大切な存在である」（18.2%）、「わからない」（10.0%）、「消防団がいることで安心する」（9.5%）、「災害活動で活躍している」（8.7%）と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別で見ると、「地域のために貢献している」は女性が男性より7.7ポイント高くなっている。  
 性／年齢別で見ると、「地域で大切な存在である」は男女ともに70歳以上で2割半ばと高くなっている。「消防団がいることで安心する」は女性70歳以上が最も高く2割近くとなっている。  
 区別で見ると、「地域のために貢献している」は全ての区で4割を超えている。



(3) 消防団のネガティブ（消極的）とイメージするもの



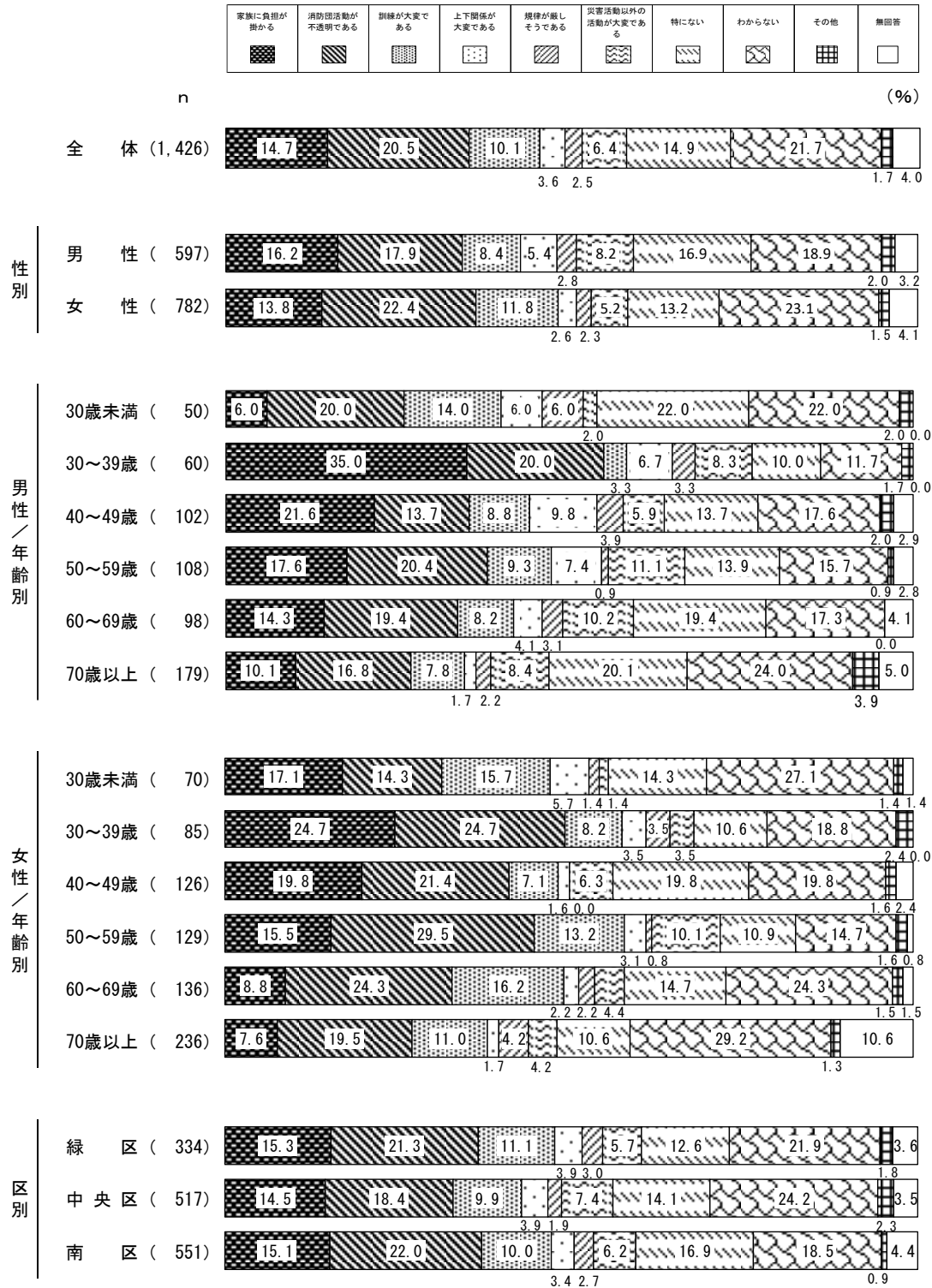
消防団のネガティブ（消極的）なイメージをたずねたところ、「わからない」（21.7%）が2割を超えて最も高く、次いで、「消防団活動が不透明である」（20.5%）、「特になし」（14.9%）、「家族に負担が掛かる」（14.7%）、「訓練が大変である」（10.1%）、「上下関係が大変である」（3.6%）、「規律が厳しそうである」（2.5%）と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果>

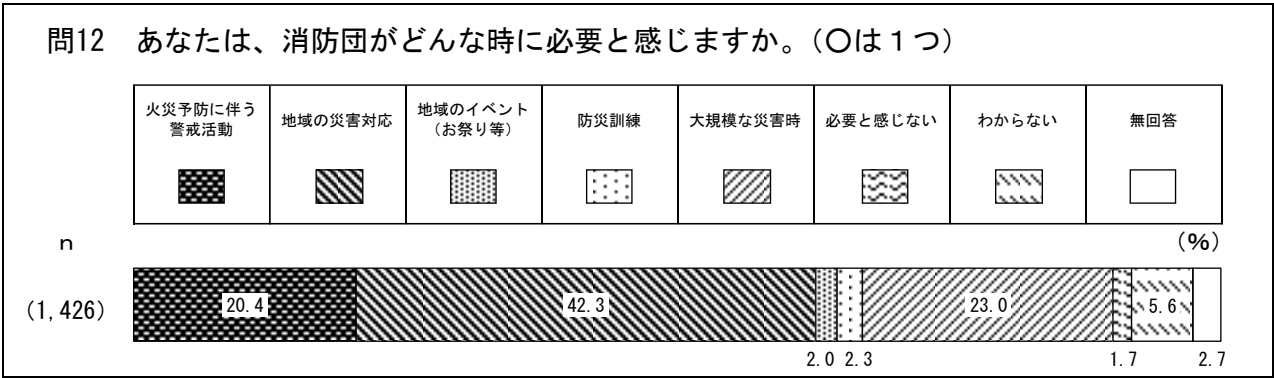
性別でみると、「消防団活動が不透明である」は女性が男性より4.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家族に負担が掛かる」は男性30～39歳が最も高く、3割半ばと高くなっている。「わからない」は女性70歳以上が最も高く、3割近くとなっている。「特にない」は男性30歳未満が最も高く、2割を超えている。

区別でみると、「上下関係が大変である」、「規律が厳しそうである」及び「災害活動以外の活動が大変である」は全ての区で1割に満たない。



(4) 消防団がどんな時に必要と感じるか



消防団がどんな時に必要と感じるかたずねたところ、「地域の災害対応」(42.3%)が4割を超えて最も高く、次いで、「大規模な災害時」(23.0%)、「火災予防に伴う警戒活動」(20.4%)と続いている。

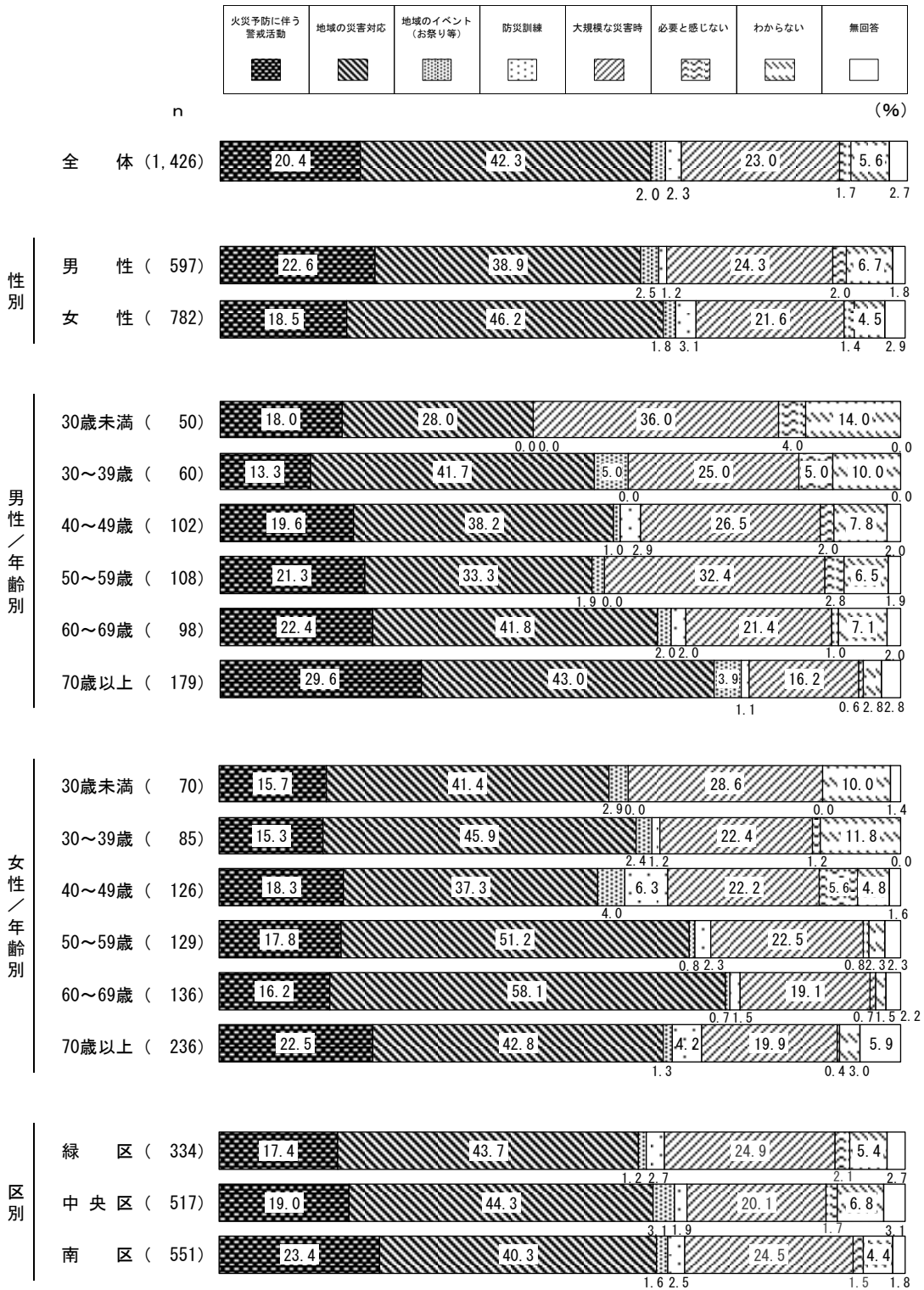
<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「地域の災害対応」は女性が男性より7.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「大規模な災害」は男性30歳未満が最も高く、3割半ばとなっている。

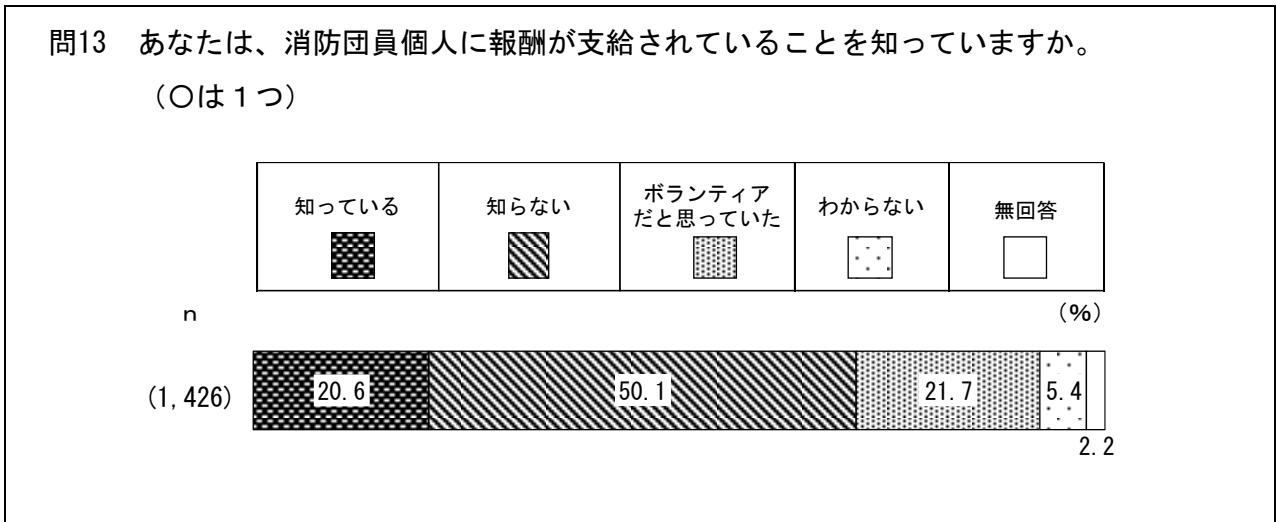
「火災予防に伴う警戒活動」は男性70歳以上が最も高く、3割近くとなっている。

区別でみると、「地域の災害対応」は全ての区で4割を超え、「大規模な災害時」は全ての区で2割を超えている。





(5) 消防団員個人に報酬を支給している認知度



消防団員個人に報酬が支給されていることを知っているかたずねたところ、「知らない」(50.1%)が5割を超えて最も高く、次いで、「ボランティアだと思っていた」(21.7%)、「知っている」(20.6%)と続いている。

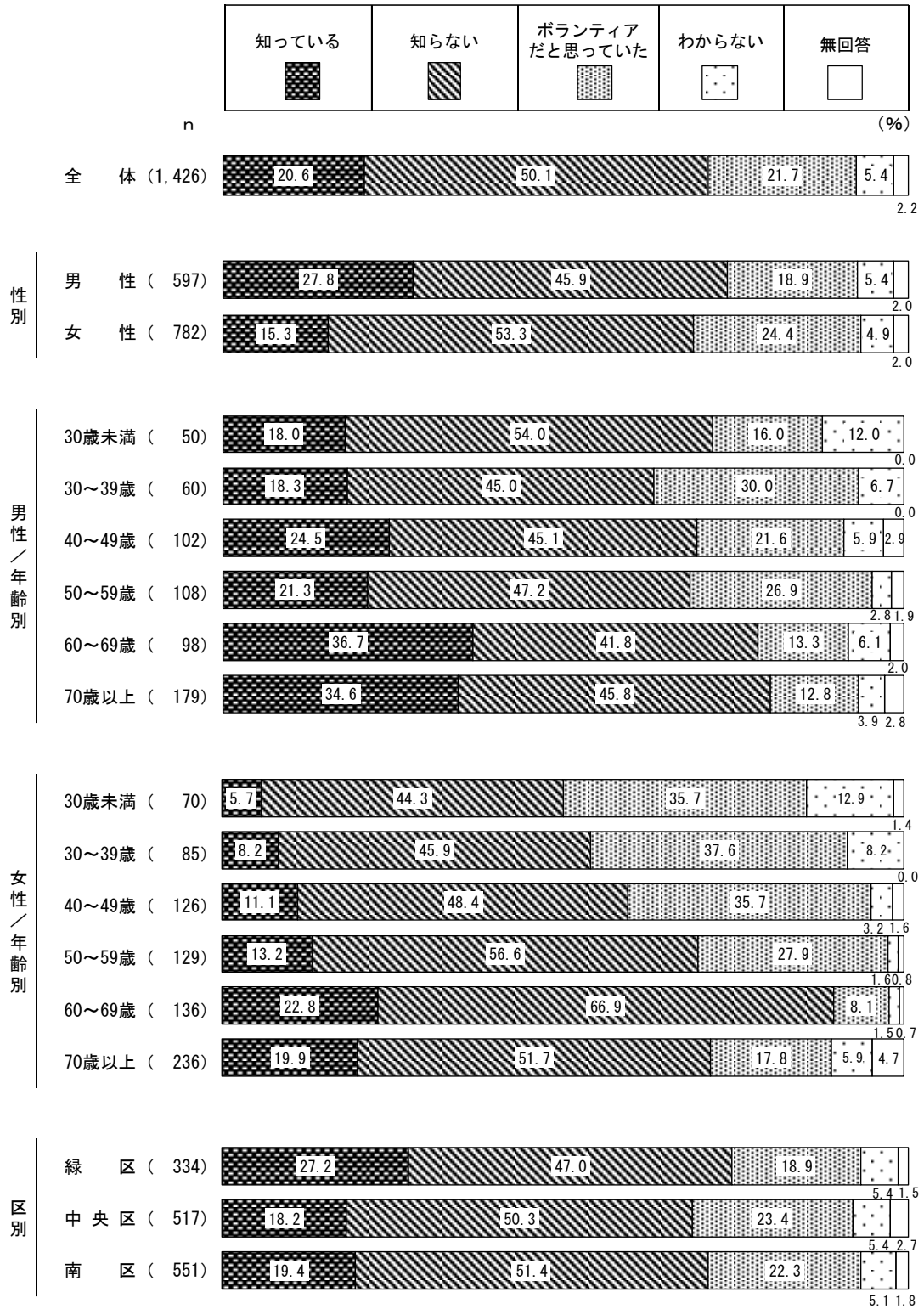
<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「知っている」は男性が女性より12.5ポイント高くなっている。

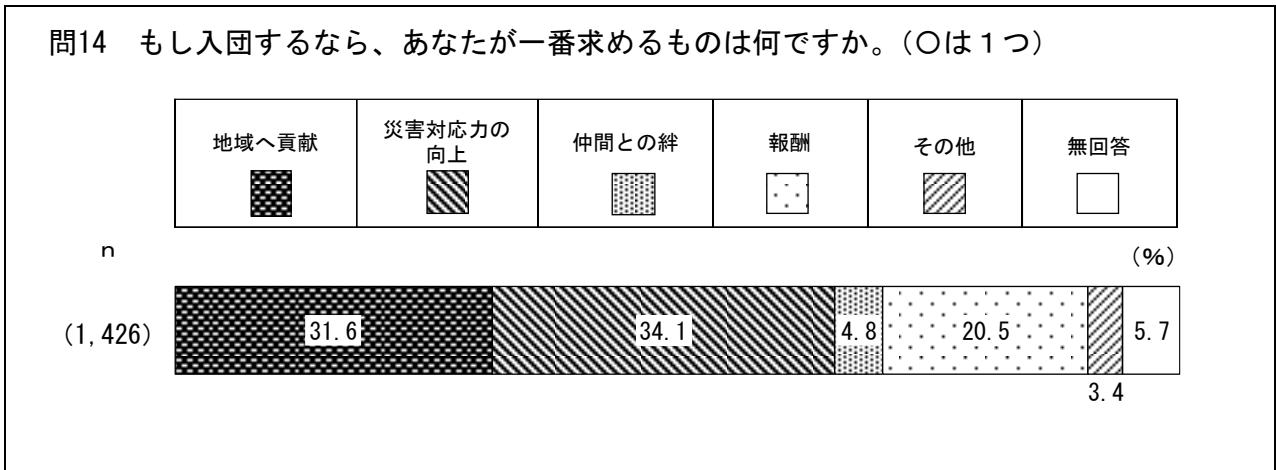
性／年齢別でみると、「知らない」は女性60～69歳が最も高く、6割半ばと高くなっている。

「ボランティアだと思っていた」は女性30～39歳が最も高く3割半ばを超えている。

区別でみると、「わからない」は全ての区で1割に満たない。



(6) 入団するとした場合にあなたが一番求めるもの



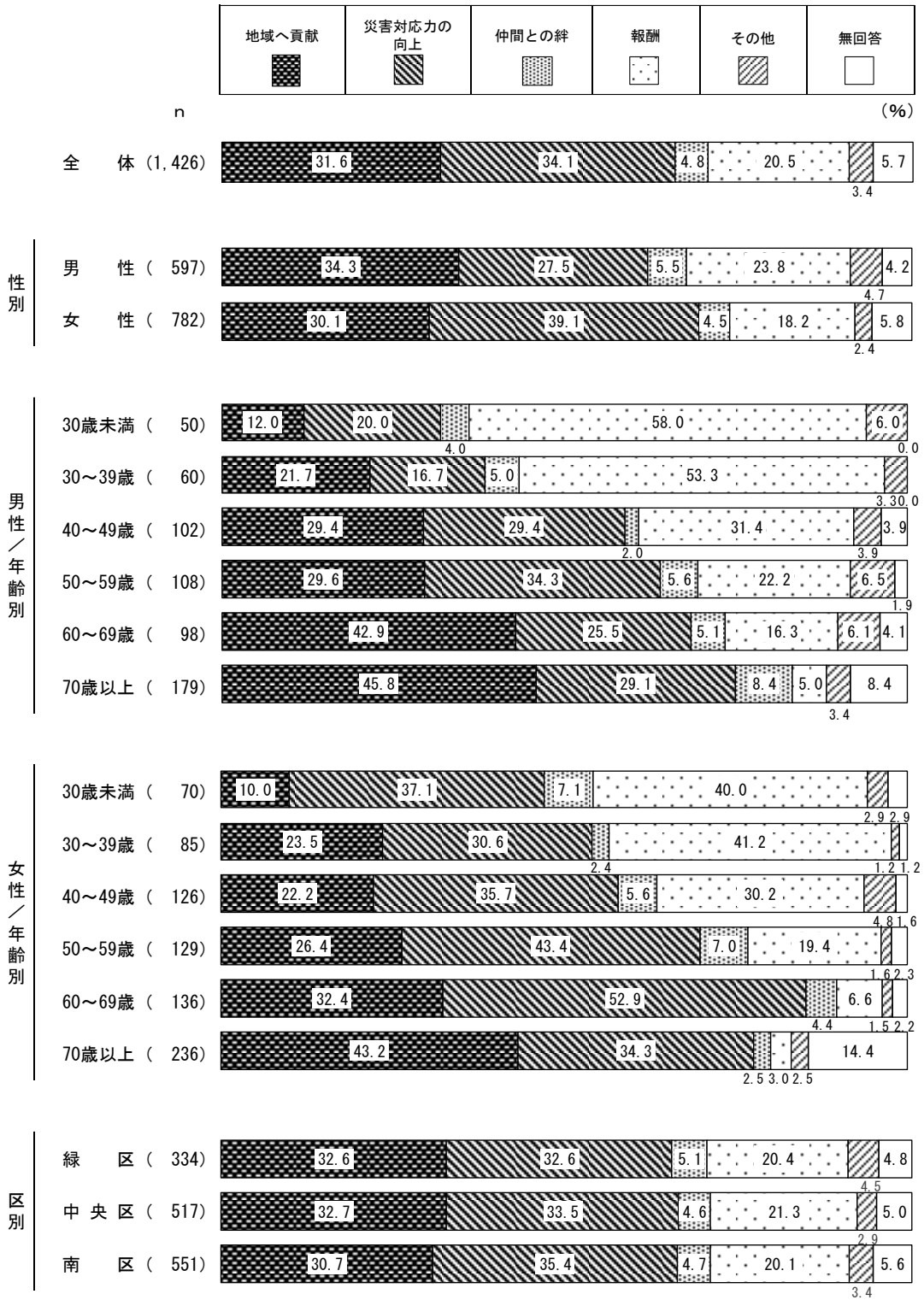
入団するとした場合にあなたが一番求めるものをたずねたところ、「災害対応力の向上」(34.1%)が3割半ばで最も高く、次いで、「地域への貢献」(31.6%)、「報酬」(20.5%)と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果>

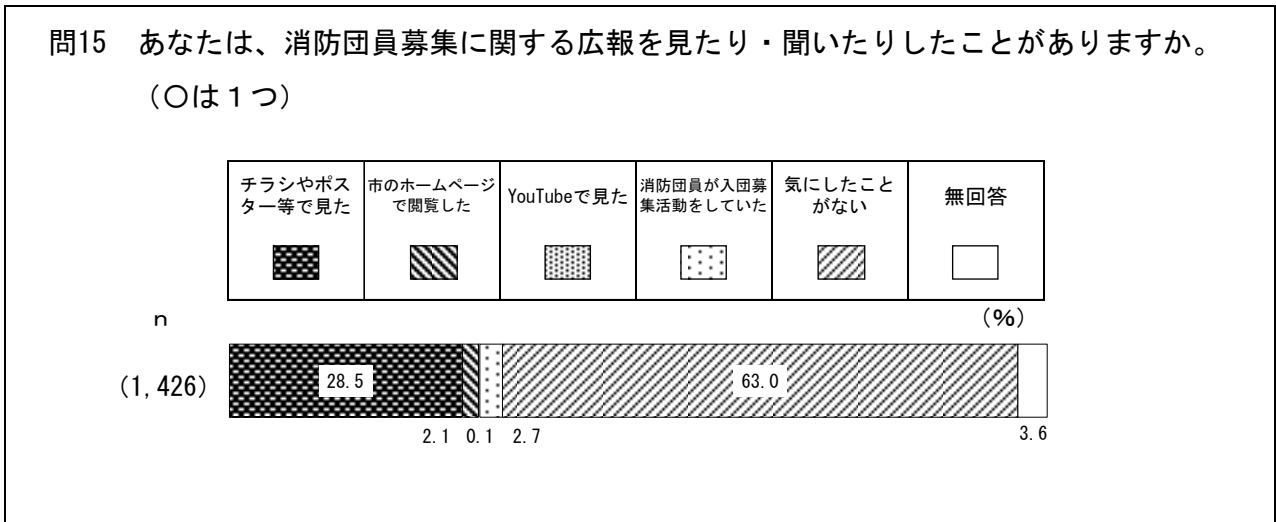
性別でみると、「災害対応力の向上」は女性が男性より11.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「報酬」は男性30歳未満が最も高く5割半ばを超えている。「地域への貢献」は70歳以上が4割半ばで最も高くなっている。

区別でみると、「仲間との絆」は全ての区で1割に満たない。



(7) 消防団員募集に関する認知度



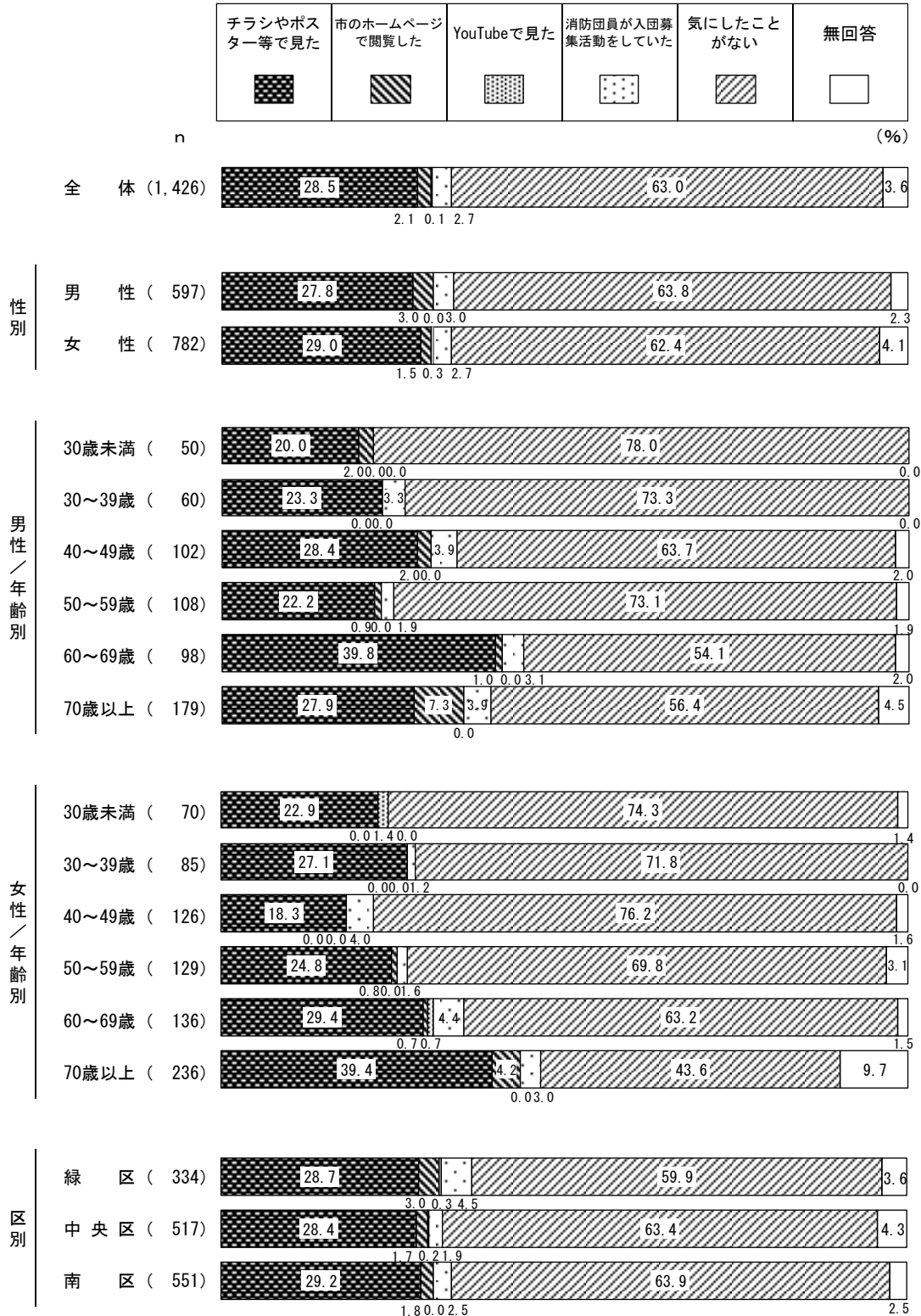
消防団員募集に関する広報を見たり・聞いたりしたことがあるかたずねたところ、「気にしたことがない」(63.0%)が6割半ばで最も高く、次いで、「チラシやポスター等で見た」(28.5%)、「消防団員が入団募集活動をしていた」(2.7%)と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果>

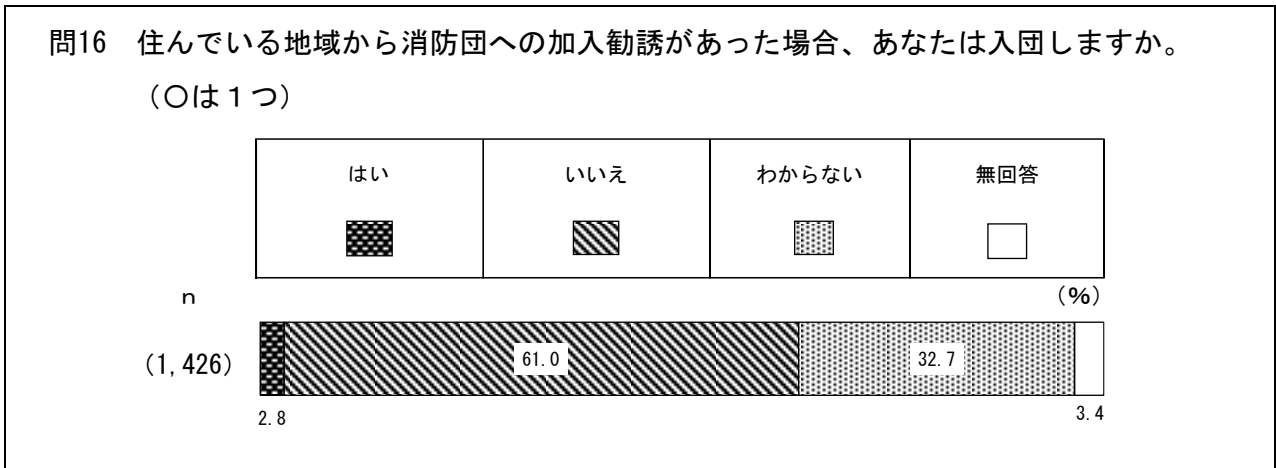
性別でみると、「気にしたことがない」は男性が女性より1.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「チラシやポスター等を見た」は男性60～69歳が最も高く、4割半ばを超えている。「消防団員が入団募集活動をしていた」は女性60～69歳が最も高いが、1割に満たない。

区別でみると、「市のホームページで閲覧した」と「YouTubeで見た」は全ての区で1割に満たない。



(8) 消防団への加入勧誘があった場合、入団するか



住んでいる地域から消防団への加入勧誘があった場合、あなたは入団するかたずねたところ、「いいえ」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで、「わからない」(32.7%)と続いている。

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「はい」は男性が女性より2.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「いいえ」は女性50～59歳が最も高く、6割半ばとなっている。「わからない」は男性30歳未満が最も高く、4割半ばとなっている。

区別でみると、「わからない」は全ての区で3割を超え、「はい」は全ての区で1割に満たない。

